

久留米大学
比較文化研究所年報
第9号

2015

比較文化研究所年報

第9号

2015

目次

はじめに	1
比較文化研究所の概要	2
活動報告（2015年度）	
1. 研究部会報告	
(1) 欧州研究部会	5
(2) 外国語教育研究部会	7
(3) 健康文化研究部会	8
(4) 地域博物館研究部会	8
(5) 福祉コミュニティ研究部会	10
(6) 文化財保存科学研究部会	15
(7) 民事法研究部会	16
(8) 地域社会経済研究部会	16
(9) 地域精神保健福祉研究部会	18
(10) 心理教育研究部会	19
(11) 会計専門職研究部会	24
(12) 日本アジア比較文化研究部会	28
(13) 歴史科学研究部会	29
2. 筑後川流域圏の総合研究	31
3. 研究員発表会	32
4. 日誌（運営会議、研究所会議等）	35
施設・設備	36

は じ め に



比較文化研究所長 浦田 義和

久留米大学比較文化研究所年報第 9 号をお届けします。本号は、2015 年度の活動報告です。

比較文化研究所は、当初、文系大学院設置母体として設立され、主に比較文化研究科設置に貢献してまいりました。

その後、2001 年から研究所に、専門研究部会を設置し、現在は 15 の研究部会が活動しています。それぞれの研究部会では、調査研究や地域に開放された公開講座、シンポジウム、セミナー等の研究活動を実施しています。

これまでも比較文化研究所としての学際的・総合的研究活動の推進と成果の社会への寄与を続けてまいりましたが、今後は、より一層の共同研究の進展が希まれます。

研究所の活動が、所員をはじめ地域や各界の皆さまにこれまで大変支えられてきたことに感謝申し上げますとともに、今後とも関係各位の皆様のご指導とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

研究所の活動が、所員をはじめ地域や各界の皆さまにこれまで大変支えられてきたことに感謝申し上げますとともに、今後とも関係各位の皆様のご指導とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

2016 年 7 月 20 日

比較文化研究所の概要

比較文化研究所は、1987年に久留米大学付属の研究所として創設されました。

研究所の目的は、「新しい学際的統合を基本理念として、文化の構造と機能に焦点を当てた総合的比較文化研究を行うこと」（比較文化研究所規程）であり、学問領域を超えて学際的な研究の推進を図ることを目指すものです。

設立当初は、文系学際大学院「比較文化研究科」を設置するための母体として、大学直属の研究所として設置されました。大学院比較文化研究科の研究機能を受け持つという性格上、専任所員及び大学院比較文化研究科後期博士課程の教員のみによって組織されており、研究所長もまた、比較文化研究科委員長（当時、現在の比較文化研究科長にあたる）が兼任しておりました。

その後2001年において、研究所の組織が改正され、比較文化研究所に、大学での研究成果を地域や社会へ還元するという役割が加わりました。それに伴って、組織も変更され、比較文化研究所所員も、大学院担当教員を中心に、その他の希望する専任教員にまでその枠が広げられました。

研究所では、多くの研究部会を組織し、それぞれのテーマで活発な研究活動を行うとともに、その成果の公開に努めています。

ほかに研究所としての活動として、以下の研究プロジェクトを実施してきました。

まず、2006年度より、研究成果の地元地域への還元を意図して地元である筑後川流域圏を対象地域とした研究を行うというプロジェクト研究「筑後川流域圏の総合研究」を開始しました。2006年度～2007年度においては、大川地域、2008年度～2009年度においては旧三潞郡、2010年度～2011年度においては旧久留米市、2012年度～2013年度においては、うきは市および朝倉市、2014年度からは、日田地区を実施し、それぞれの地域の『研究報告書』を発行してまいりました。

以上の研究プロジェクトは2015年度をもって終了しました。

いずれの研究事業も、比較文化研究所の研究成果の地域への還元、さらには、久留米大学と地域との連携強化を図るものであります。2015年度においては、次のような組織・体制となっております。

組織体制

所 長	大矢野 栄次（経済学部教授と兼任）
専任所員（任期制）	浦田 義和（教授）（2013. 4. 1～2018. 3. 31） 北村 修二（教授）（2014. 4. 1～2019. 3. 31）
客員教授	森 醇一郎 保坂 恵美子

所 員	2015年度 84名（専任所 2 名含む）、 大学院比較文化研究科後期博士課程の教員31名、
-----	--

大学院心理学研究科後期博士課程の教員 8 名、
任意に加入する助教以上の教員 43 名

特別研究員 3 名

研究部会研究協力者 9 名（文化財保存科学研究部会 8 名、福祉コミュニティ研究部会 1 名）

研 究 員 2015 年度 25 名

専任所員は、講師以上の教員となり、任期制をとっております。

所員は、専任所員、大学院比較文化研究科後期博士課程の教員のほか、大学院心理学研究科後期博士課程の教員および任意に加入する助教以上の教員により構成されています。

研究体制としては、「研究部会」を置き、各研究部会長が研究活動の中心として研究活動をリードしています。2015 年度における研究部会は以下の通りです。また、各研究部会の研究活動を次項以下に示します。

- 1) 欧州研究部会（部会長 児玉昌己教授）
- 2) 外国語教育研究部会（部会長 李 偉准教授）
- 3) 健康文化研究部会（部会長 満園良一教授）
- 4) 地域博物館研究部会（部会長 吉田洋一准教授）
- 5) 福祉コミュニティ研究部会（部会長 濱崎裕子教授）
- 6) 文化財保存科学研究部会（部会長 狩野啓子教授）
- 7) 民事法研究部会（部会長 石川真人教授）
- 8) 地域社会経済研究部会（部会長 大矢野栄次教授）
- 9) 地域精神保健福祉研究部会（部会長 辻丸秀策教授）
- 10) 心理教育研究部会（部会長 木藤恒夫教授）
- 11) 会計専門職研究部会（部会長 杉野博貴教授）
- 12) 日本・アジア比較文化研究部会（部会長 浦田義和教授）2014 年度～
- 13) 歴史科学研究部会（部会長 福山裕夫教授）2014 年度～

研究員は、後期博士課程を修了した者が、その後も研究を続け、博士の学位論文の作成を目指すという者等が含まれます。2015 年度は 25 名の研究員が在籍しており、指導教員の指導の下、各自の専門分野の研究を行っています。

審 議

比較文化研究所における審議組織として、主として次の 2 つの審議組織があります。

運営会議：所長、専任所員、研究部会長、所員の代表からなる組織で、2015 年度は 15 名の運営委員で構成されています。研究所の運営に関する中心的な審議機関となります。

研究所会議：所長、専任所員、所員全員からなる組織で、規程、運営方針、予算、人事等に関する審議を行います。

また、学部などとの必要な連絡調整を図り、研究所の円滑な運営を期するため、研究所協議会が置かれています。協議会は、所長、学部長、比較文化研究科長、心理学研究科長、ビジネス研究科長、

法科大学院長、専任所員の教授を含む所員の教授 5 名によって組織されています。

おもな活動

比較文化研究所の活動は、研究部会の活動および研究所の活動に分かれます。

2015 年度の活動については次項以下を参照ください。

研究成果の公表

『比較文化研究』

研究所の紀要として『比較文化研究所紀要』第 1 輯を 1987 年に発行しましたが、その後 1993 年発行の第 14 輯からは『比較文化研究』と紀要名を改称しています。また、2009 年度より、査読制をとり、年 1 回の発行となっております。第 50 輯の目次は以下の通りです。

『比較文化研究』第 50 輯（2016 年 3 月発行）

論 文 濱崎裕子「地域包括ケアシステムにおける「住まい」のあり方

—ドイツ（ベルリン）のコ・ハウジング調査を通して— pp.1-20

研究ノート 辻丸秀策「統合失調症の新しい診断・統計マニュアル DSM-5 についての臨床的詳解と批判的検討」 pp.21-34

資 料 福山裕夫「民俗学、歴史研究における地域連携の実例

—公開講座「九州王朝論」要旨集— pp.35-52

各研究部会等の研究成果の公表

また、各研究部会などにおいても出版物をはじめとする研究成果の発表が行われておりますが、それらの成果については、各研究部会等の報告（後述）をご参照ください。

さらに、研究員については、2006 年度から、年度末の 2 月に、研究員研究発表会を行い、その年度における研究成果の発表が行われています。

『比較文化研究所年報』の発行（本冊）

比較文化研究所における 1 年間の研究成果の報告および比較文化研究所の学外への周知を目的に、2008 年度（2007 年度の報告）より発行を開始しました。

筑後川流域圏の総合研究

久留米大学は、筑後川流域圏の中央部に位置しますが、久留米大学の位置する筑後川流域圏を研究し、さらにその成果を地域に還元しようとするものです。本研究は 2006 年度より開始しています。下流域から上流域へ 2 年単位で研究を進めており、2007 年度末に『大川地域研究』、2009 年度末に、『三潴地域研究』、2011 年度末に『久留米地域研究』、2013 年度末に『うきは・朝倉地域研究』、2015 年度末に『日田地域研究（筑後川流域圏の総合研究 5）』を発行しました。（詳細は別項参照）

活動報告

1. 研究部会報告

(1) 欧州研究部会

2015年度の欧州部会は例年同様、内外の著名な専門家を招いて、7回にわたり、福岡天神の本学サテライト教室で講演会を開催した。40名程度の参加者を毎回得て、欧州及び世界情勢について、学びまた、フロアーの参加者も交えて、知見を広めることができた。

講演会の演題、講師とその略歴・業績、および会場、日時などの資料は以下とおりである。

第1回 4月講演案内

演 題：「EU における民主主義と反 EU 勢力」

講 師：根岸 隆史（ねぎし たかし）参議院厚生労働委員会調査室調査員

略 歴：埼玉県出身

京都大学法学部卒業 2000年参議院事務局入局。2008年より在ストラスブール日本国総領事館領事。総領事館では欧州議会、欧州評議会を担当 2011年より現職。

業 績：「EU (1) —2014年欧州議会選挙結果と EU の動向—」

立法と調査 2014.8. No.355（参議院事務局 企画調整室編集・発行）、

「EU (2) — 2014年欧州議会選挙結果と EU の展望—」

立法と調査 2014.12. No.359（参議院事務局 企画調整室編集・発行）など。

会 場：久留米大学福岡サテライト教室（中央区天神 1-4-2 エルガーラオフィス 6 階）

日 時：2015年 4 月17日（金）15時～16時半（含む質疑応答20分）

第2回 11月講演案内

演 題：「EU の難民政策：地中海とバルカン」

講 師：八十田 博人（やそだ ひろひと）共立女子大学国際学部准教授

略 歴：富山県生まれ。

1988年筑波大学第一学群人文学類卒業。大和総研国際調査部研究員を経て、イタリア政府奨学生としてフィレンツェ大学政治学部留学。2000年東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程国際社会科学専攻満期退学。修士（学術）。日本学術振興会特別研究員、大阪大学大学院国際公共政策研究科特任研究員を経て、2008年より共立女子大学国際学部専任講師、2011年より同准教授。

業 績：『ヨーロッパの政治経済・入門』（共著、有斐閣）、『EU スタディーズ 3 国家・地域・民族』（共著、勁草書房）、『比較外交政策イラク戦争への対応外交』（共著、明石書店）他。

会 場：久留米大学福岡サテライト教室（中央区天神 1-4-2 エルガーラオフィス 6 階）

日 時：2015年11月27日(金) 15時～16時半 (含む質疑応答20分)

第 3 回 12月講演案内

演 題：「オーストリアの移民 ―雇用の問題を中心に―」(仮題)

講 師：東原 正明 (福岡大学法学部准教授)

略 歴：1973年福岡生まれ。修猷館高校卒。北海学園大学大学院法学研究科単位取得満期退学。博士(法学)。2008年、オーストリア政府給費奨学金によりオーストリア抵抗文書館留学。在オーストリア日本国大使館経済班専門調査員を経て、2011年より福岡大学法学部専任講師、2014年より現職。現在はオーストリア現代政治に関して、極右政党のほか原発政策などについても研究。

業 績：『世界政治叢書 3 北欧・南欧・ベネルクス』(ミネルヴァ書房、2011年、共著)、『反核から脱原発へ ドイツとヨーロッパ諸国の選択』(昭和堂、2012年、共著) ほか。

会 場：久留米大学福岡サテライト教室 (中央区天神 1-4-2 エルガーラ・オフィス 6 階)

日 時：2015年12月11日(金) 15時～16時半 (含む質疑応答20分)

第 4 回 12月講演案内

演 題：「イギリスにおけるナショナリズム：EU 離脱論とスコットランド独立論」

講 師：小堀 眞裕 (立命館大学法学部教授)

略 歴：立命館大学卒、法学博士(大阪市立大学)、1992年琉球大学法文学部講師、1996年立命館大学法学部助教授、2003年より現職。

業 績：単著『国会改造論：憲法、選挙制度、ねじれ』(文春新書、2013)

単著『ウェストミンスター・モデルの変容』(法律文化社、2012)

単著『サッチャリズムとブレア政治』(晃洋書房、2005) など

会 場：久留米大学福岡サテライト教室 (中央区天神 1-4-2 エルガーラ・オフィス 6 階)

日 時：2015年12月25日(金) 15時～16時半 (含む質疑応答20分)

第 5 回 1 月講演案内

演 題：「ユーロ危機と EU の行方」

講 師：星野 郁 (立命館大学国際関係学部教授)

略 歴：石川県出身

九州大学大学院経済学研究科博士課程満期単位取得退学。九州大学助手、國學院大學経済学部を経て、2005年より現職。

業 績：単著、『EU 経済・通貨統合とユーロ危機』、日本経済評論社、2015年

単著、『ユーロで変革進む EU 経済と市場』、東洋経済新報社、1998年

会 場：久留米大学福岡サテライト教室 (中央区天神 1-4-2 エルガーラ・オフィス 6 階)

日 時：2016年 1 月 8 日(金) 15時～16時半 (含む質疑応答20分)

第 6 回 1 月講演案内

演 題：欧州の難民問題を考える わが国のインドシナ難民受け入れの教訓

講 師：大家 重夫（久留米大学名誉教授 元内閣審議官）

略 歴：1934年生まれ。

小倉高校、京都大学法学部を経て、文部省入省、1982年 7 月文化庁文化部宗務課長を経て、1987年 9 月著作権審議会専門委員（1991年 9 月まで）1988年 3 月 1 日文部省退。

久留米大学教授就任、法学部長、特任教授など歴任、現在、特定非営利活動法人 日本肖像権協会理事 公益社団法人国際日本語普及協会理事など、内閣審議官として日本のインドシナ難民受け入れの国家行政実務に従事。

業 績：「改訂版 ニッポン著作権物語」青山社・1999年。「タイプフェイスの法的保護と著作権」成文堂・2000年。「著作権を確立した人々」成文堂・2003年。「唱歌『コヒノボリ』『チューリップ』と著作権」全音楽譜出版社・2004年。「肖像権」2004年。「肖像権—改訂新版」太田出版・2011年。「美術作家と著作権—その現状と展望」里文出版・2013年（福王寺一彦と共著）など多数。

会 場：久留米大学福岡サテライト教室（中央区天神 1-4-2 エルガーラ・オフィス 6 階）

日 時：2016年 1 月29日（金）15時～16時半（含む質疑応答20分）

第 7 回 3 月講演案内

演 題：欧州のなかにおけるドイツの戦後

講 師：石川 捷治（久留米大学客員教授 九大名誉教授）

略 歴：1944年10月中国大連市生まれ。

1972年九州大学大学院法学研究科博士課程単位修得退学。北九州大学（5 年間）、九州大学法学部（30年間）において研究・教育に従事。その間、九大法学部長、九大韓国研究センター長などを歴任。2008年久留米大学法学部教授に就任、2015年久留米大学を定年退職。現在、久留米大学客員教授。

業 績：『終わらない20世紀—東アジア政治史 1984—』（共編著）法律文化社、2003年、『スペイン市民戦争とアジア』（共著）九州大学出版会、2006年、論文「（研究ノート）具島兼三郎—人生と学問」『久留米大学比較文化研究所年報』（2015年）

会 場：久留米大学福岡サテライト教室 中央区天神 1-4-2 エルガーラ・オフィス 6 階）

日 時：2016年 3 月11日（金）15時～16時半（含む質疑応答20分）

（文責 児玉 昌己）

(2) 外国語教育研究部会

本年度活動なし

(3) 健康文化研究部会

「様々なスポーツ環境および学校体育の医療支援体制における人材整備の現状調査」

《活動報告》

2014年度に福岡県内14の高校、約1000人について、スポーツおよび健康に関する主要な3資格の関心度を調べた。その対象資格は日本体育協会公認アスレティックトレーナー（以下、AT）、日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員、健康体力づくり事業財団認定健康運動指導士の3資格であるが、この3資格に日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者を加えた4資格が今回の対象資格である。

まず、2015年度については民間企業におけるスポーツおよび健康に関わる資格の認識を調べる準備段階として、フィットネス・クラブや指導者派遣の会社代表などに聞き取りを2社で行った。その結果、調査対象はリストアップしたものの、必ずしも人材確保について資格ありきではないことを強調されたことなどから民間企業におけるスポーツおよび健康に資格に対する意識調査は行っていない。

次いで、高等学校における保健体育の授業と運動部の指導に関わる教諭にスポーツおよび健康に関する資格に対する意識調査を昨年(2015年)末から行っており、現在でも継続中である。その内容は、高等学校における保健体育と運動部の指導に関わる教諭を対象に、上記4資格の認知と必要性について尋ねることと、自由筆記から成る調査である。現時点における対象校は福岡県北九州地区1校、福岡県福岡地区1校、福岡県筑後地区2校、長崎県2校、鹿児島県3校、(学校数は不明ながら)宮崎県全体に及び、約100人程の回答を得ているものの、3分の1程の回収を待って順次、分析を進める予定である。

(文責 満園 良一)

(4) 地域博物館研究部会

運営(研究)テーマ

地域博物館研究部会は、筑後川水系を中心に形成された地理的環境のもと、筑後川流域の将来計画を策定するうえでの大学組織の役割として、周辺自治体や市民と共に協力・連携し、歴史的環境を保持し地域文化を継承していくことを目的とする。

運営(研究)計画

- ①九州管内を中心とした地域博物館の現地調査・視察
- ②筑後川水域関連資料の保存・収集(学生への還元)
- ③久留米大学関連資料の保存・収集(学生への還元)

2015年度の活動報告

①史料調査

2011年度より、久留米大学文学部と合名会社・山口酒造場(久留米市北野町)を中心として行われた「酒活プロジェクト」は、同学部学生と共にリキュール制作や「酒造り」研修などを実施、現在も進行中である。同プロジェクト遂行中、酒造場代表・山口哲生氏のご教示により、同家で保管

されている古文書類の存在を知り、同年に数回予備調査を行った。その後2014・2015年度には個別調査を実施した。調査参加者及び2015年度の調査日程は以下の通りである。

調査参加者 (2014・2015年度)

梶嶋政司、中村江里 (以上、九州大学)、園城寺敦子、東史佳、堤隆一、矢野絵理子、熊井萌、宮崎直、今井冨香、山本優、池田直文、日高智裕、赤木なな実、城隆子、満留圭史、青木裕太、井上貴裕、藤井彩花、堤あずさ、小山楓、岡本康平、赤司桃子、松尾玲奈、田添彩香、藤川舞 (以上、久留米大学学生(当時))

調査日程 (2015年度)

平成27年 5 月 9 日(土) 画像・調査カード確認及び入力、DVD作成

参加者：吉田、中村

7 月11日(土) 写真撮影及びカード・入力の確認訂正、DVD作成

参加者：吉田、池田、堤、中村 (博物館実習：梶嶋、山下、上野、神尾、郡、倉原)

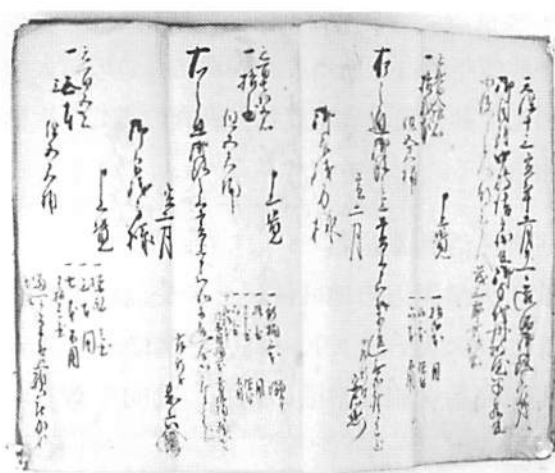
史料の概要を略説すると、史料総数は2500点を超えるものであり、その大半はいわゆる証書 (文) 類であった。山口酒造場は、享保年間(1716-35)頃、初代・与右衛門が北野 (現久留米市) に移り住んだことに始まるといわれており、その後、清八―惣平―利平―利七―利助―一二―儀六―正人―尚則―哲生 (現当主、以上敬称略) と継承されている。

歴代当主のうち、関連史料が最も多かったのは7代目・一二(約500点)で、8代目・儀六(約200点)、9代目・正人(約70点) の関連史料を合わせると、全体の約3分の1を占める結果となった (ニューズレター vol.7 より引用)。

上記史料目録は、『日田地域研究』(筑後川流域圏の総合研究 5、久留米大学比較文化研究所編、2016年)に掲載。



調査の様子



史料の一部 (史料番号：A-1)「御印銭方様」の文字がみえる

②講演会

日 時：平成28年 2 月20日 15：00～17：00

場 所：久留米大学御井学舎 51A 教室

演 題：「水の都 松江城下町の形成」矢野 健太郎 氏 (島根県教育委員会)

内 容：

昨年国宝に正式指定された松江城は国宝唯一の正統天守閣といわれていますが、筑後川兩岸の佐賀平野・筑後平野に類似した軟弱地盤の上に建てられました。本講演は、島根県教育委員会の矢野健太郎氏をお迎えし、松江城とその城下町が、周囲の自然環境と都市計画から、いかにして水の都として形成されていったのかを、絵図や地誌などの史料や発掘調査の成果などをもとに平易に解説していただきました。慶長 6 (1611) 年に完成した松江城天守の構造的特徴（「包板」工法など）や、城下町形成において中心的な役割を担った堀尾氏の事績、さらに、宍道湖を含めた景観の変遷など、大変興味深いご講演となりました（ニュースレター vol.7 より引用）。

③ニュースレター（vol. 7）の発行

地域博物館研究部会ニュースレター

佐賀大学低平地研究会歴史・文化研究部会 共編

CONTENTS

山口酒造場史料調査	吉田 洋一
博物館訪問記「企業博物館の多様性」	満園 良一
講演会「水の都 松江城下町の形成」	矢野 健太郎
寄稿「臼杵市歴史資料館」	岡村 一幸

(文責 吉田 洋一)

(5) 福祉コミュニティ研究部会

平成27年度は、前年度と同様に2つの「大学と地域の連携」活動を行い、また地域資源の活用による福祉活動や高齢者施設動向調査の研究・活動課題にも取り組んだ。以下に、その成果と課題について報告する。

研究・活動課題名

- I. 大学周辺の地域住民との交流によるまちづくり実践研究（継続）
- II. 高∞大 SHOCK（高大連携によるステージイベント）
- III. 高齢者施設整備の新しい動向である地域密着型サービスの実態調査研究

I. 大学周辺の地域住民との交流によるまちづくり実践研究（継続）

1. 目的

高良山の自然環境や高良大社などの地域資源を活用し、地域を持続可能なものとするための実践活動である。御井小学校の総合的な学習の時間の授業とコラボレーションすることにより、次世代を育てる環境教育および福祉教育の目的をもつと同時に、そこに地域住民のボランティア活動を融合させ、

大学の企画と学生参加による福祉コミュニティづくりの実践研究とする。

昨年に引き続き金明孟宗竹で有名な高良山の「竹」をテーマに小学生が学習することを基本に、その企画や竹伐り、竹工作の準備などを大学生が行うことによる学生教育効果も期待した。1回目に高良山と一緒に登り、竹伐りをして、2回目に小学校の体育館でグループに分かれて工作を行うことにより、地域住民、大学生と小学生の相互交流・理解を深めることを目的とした。

さらに、大学間交流により地域活動に主体的に取り組む学生を育てるために、福岡女子大学および長崎国際大学と合同ワークショップを行った。今年は福岡女子大学の和栗百恵先生を講師に依頼して「“体験学習”を“地域貢献”につなげる」ことをテーマにした講演とワールドカフェ形式のワークショップ運営を行っていただいた。

2. 研究委員

濱崎 裕子	久留米大学文学部社会福祉学科 教授（研究委員長）
大西 良	久留米大学 非常勤講師（研究委員）
岩坂 浩子	久留米大学文学部情報社会学科 非常勤講師（研究委員）
ポドリヤク・ナタリヤ	久留米大学大学院比較文化研究所所員（研究委員）
池田 博章	久留米大学比較文化研究所 研究員（研究委員）

3. 研究委員会開催日

平成27年4月16日（木）	第1回研究委員会 研究計画・企画委員会の検討
平成27年4月20日（月）	第1回企画委員会 御井小学校との計画委員会
平成27年5月11日（月）	第2回研究委員会 体験学習の企画・検討
平成27年5月28日（木）	第1回体験学習（高良山登り）
平成27年6月11日（木）	第3回研究委員会 体験学習（工作）の企画・検討
平成27年6月16日（火）	第2回体験学習（校内創作活動）
平成27年11月19日（木）	第4回研究委員会 ワークショップ企画・検討
平成27年12月12日（土）	大学間交流；ワークショップ
平成27年12月17日（木）	第5回研究委員会 研究のまとめ

4. 活動報告

本研究活動は継続研究であるが、本年も御井小学校の総合的な学習の時間とコラボレートした。昨年は、遊びを通して歴史・文化を学ぶようなプログラムにし、最終的に各自が石に絵を描きジオラマを皆で作成したことが好評だったため、今年は、竹を伐りだして、それを使って自分の作品をつくり成果を形に残すプログラムにした。

地域で長年活動している「竹友会」「高良山の自然と環境を守る会」および「高良山のボランティアガイド」という3つのボランティアグループの方々が、竹林の持ち主との交渉から竹を伐り出す技術指導および竹を使った工作の手伝いにいたるまで協力して下さった。これらの地元住民と大学との継続的交流による信頼が基盤になって、今回の実践研究も実施できたことを実感した。

小学生にとっては、総合的な学習の趣旨に沿った意義ある学習となり、大学生にとっても地元住民の多様な活動を知るだけでなく、そのような住民との直接的関わりを通して、地域社会を構成する人々から得た人間教育の意味も大きい。

学内創作活動は、パルキッズの学生達が段取りよく全体指導をして、乾燥させた竹を使って貯金箱とフラワーポットにするための一連の工作を行った。それらの竹に各自で絵を描くとともに、フラワーポットに土を入れて種を植えた。これが夏休みに美しい花を咲かせたという報告も受け、子どもたちに印象深いものとなったようである。

近年、学校教育における地域住民の果たす役割にも注目されているが、このような機会をより多く大学が創りだしていくことも今後の課題であろう。

大学間交流に関しては、久留米大学の久留米・筑後体験演習履修者の有志40名、福岡女子大学の和栗ゼミ生3名、長崎国際大学社会福祉学科の学生8名がワールドカフェ形式で、「体験演習」を久留米大学の理念である「地域貢献」につなげるために、また体験を最大限に学びに還元するために、どのように取り組めばよいのかについて意見交換を行った。この形式のワークショップは、自由に考えを述べつつ、他者の意見に目覚めることも多いが、学生たちにとってはコミュニケーションの大切さを実感することになったようである。また地域との関わりをもつことの意義についても自覚し、「今後もこのような形のワークショップにもっと参加したい」という要望も聞かれた。

企画者としても他大学の教育プログラムを参考にすることができ、教員同士の交流を通して、現代社会の学生達にいかに関わりを通して身につく学修と社会活動を進めていくか、大学教育のあり方に関する有意義な情報交換となった。

II. 高 ∞ 大 SHOCK (高大連携によるステージイベント)

1. 目的

昨年までは、みいステ（多世代がつながる音楽ステージイベント）を行なってきたが、今年はそれをプロデュースする人材が充分ではなく、視点を変えて高校と大学の連携による音楽ステージを、大学行事である C ∞ SHOCK のなかで開催することにした。

キャンパス近くの南筑高校の太鼓部、軽音楽部、ダンス部と信愛女学院新体操ジュニアクラブが、久留米大学の吹奏楽部や Unity（大学ダンスサークル）とステージコラボを行い、音楽やダンスを通して近隣の高校と大学の連携を図ることができた。

出演者たちは、高校生も大学生もイベントを楽しむことができたし、ステージを盛り上げるために練習を共にすることを通してつながりができ、連携の意義もあった。しかし、反省点としては、会場が石橋文化ホールであったために、御井地区の地域住民との交流にはならなかったことと、会場費や楽器運搬などに経費がかかったことである。経費については久留米市のキラリ補助金を一部活用した。

今後は反省点も踏まえて、音楽・ダンス等のイベントを通じた交流をどのように進めていくか検討したい。

2. 研究会

平成27年 6 月 5 日（金） 高大連携ステージイベント企画会議

3. 高大連携・イベント準備会

平成27年 6 月11日（木） 南筑高校ダンス部と Unity のコラボ練習

平成27年 6 月17日（水） 高校軽音楽部と大学器楽部の合同練習

平成27年 6 月27日（土） 各グループの合同練習

平成27年 7 月 1 日（水） 石橋文化ホールにてリハーサル

4. 開催日

平成27年 7 月 4 日（土） 高 ∞ 大 SHOCK ステージイベント

イベント後に行った参加者のアンケートによれば、満足度の高いものが多く、お互いに交流できたことがよかったという感想が最も多かった。

Ⅲ. 高齢者施設整備の新しい動向である地域密着型サービスの実態調査研究

1. 目的

近年の高齢者ケアにおける重点施策は、施設ケアから在宅ケアへの移行に対応する地域密着型サービスの普及である。また、フォーマルなサービスと住民主体のインフォーマルなサービスを連携させる必要性も高まっており、孤立化の防止や介護予防のために地域の居場所づくりが各地で実践されている。

それらを踏まえ、本年の調査は、昨年に引き続き熊本県が行っている「地域の縁側事業」（日常生活圏域に地域ケア拠点；地域の縁側を住民と協働でつくり、地域ケア体制を構築する）の実践例を5ヵ所と、在宅福祉にも力を入れている特別養護老人ホームや認知症ケアの中心となっているグループホームの訪問調査を行った。

これらのプロジェクトに取り組む運営者の理念、活動している住民の思いや施設運営の実態を見学・ヒヤリングすることにより、地域福祉と高齢者ケアの新しい動向と課題について総合的な考察を行うことが本研究の目的である。

2. 研究委員

濱崎 裕子	久留米大学文学部社会福祉学科 教授（研究委員長）
大西 良	久留米大学 非常勤講師（研究委員）
池田 博章	久留米大学比較文化研究所 研究員（研究委員）

3. 研究委員会開催日

平成28年 1 月14日（木） 第 1 回研究委員会 研究計画の検討

平成28年 2 月18日（木） 第 2 回研究委員会 研究スケジュール・事前勉強会

- 平成28年2月22日（月） 現地視察・調査－1
平成28年2月23日（火） 現地視察・調査－2
平成28年2月25日（木） 第3回研究委員会 研究のまとめ

4. 活動報告

訪問先概要

1) 特別養護老人ホーム一本松荘（山鹿市）

特別養護老人ホームだけでなく、高齢者住宅整備などによる切れ目のない支援を行い、地域の縁側も近隣に整備して、地域福祉の視点をもつ法人である。

2) 地域の縁側#1「菊地れとろ館」（菊池市）

運営主体は社会福祉法人不動会で、大きな蔵の再利用により、奥にデイサービス、入口近くに地域に開かれたレストランが2つあり、中央のホールではピアノ演奏もあって、多世代の人の居場所となっている。

3) 地域の縁側#2「輝き館ひかり」（合志市）

空き店舗再利用により高齢者デイサービス、病児保育、学童の制度外での預かりを行っている。合志市社協のサテライト拠点として地域住民の支え合い活動も支援している。

4) 地域の縁側#3「きくちふるさと水源交流館」（菊池市）

NPO法人の運営。廃校になった中学校校舎を再利用して、宿泊施設や研修センターとして活用し、地域活性化および地域の縁側づくりを行っている。

5) 地域の縁側#4「ほっとステーション武蔵が丘」（菊陽町）

県営住宅団地の1階にある空き店舗を再利用して、「相談」「交流」「食」をテーマにした交流拠点を設け、地域（団地）住民の交流、障害者の就労支援、ボランティア活動などが、社会福祉協議会のバックアップのもとに行われている。

6) 地域の縁側#5「小規模多機能ホームほたる」（上益城郡）

古民家の再利用であるが、地域交流サロンと宿泊室を増築して、小規模多機能施設として高齢者介護・配食サービスを中心に多様な地域交流プログラムの実践を行っている。

7) 認知症ケアグループホームせせらぎ（上益城郡）

古民家の再利用により認知症の人に相応しい環境づくりと重度の人も受け入れる専門性の高い認知症ケア施設である。施設長がグループホーム協会の会長であり、認知症ケアの理念に関するレクチャーも行っていただいた。

今年の視察訪問先は全てが地域とのつながりをつくる拠点となっており、地域密着というキーワードに相応しいもので、それらの運営者の理念が確立されていた。近年、社会福祉法人のあり方が問われているなかで、今回は地域福祉の視点をもつ法人の良い事例であった。また、事前申し込みをしていただくため、学生や研究者への丁寧な解説もあり、住民主体の地域福祉活動を支えている社会福祉協議会の活動実態も学ぶことができた。

地域の縁側事業は熊本県の行政事業であるだけに、県下に多くの事例があるが、専門職の関わりも

あって、今後の日本の地域福祉推進の一つのモデルとなるであろうと考える。現在、全国的に空き家活用が大きな課題となっているが、その先進事例と位置付けられるものも多く、また活動内容も多様であるため研究対象としても注目される。

今後も引き続き他の事例調査も行い、それぞれの地域特性にあった事業展開をどのように行っているのか、さらに考察を深めていきたい。

(文責 濱崎 裕子)

(6) 文化財保存科学研究部会

2015年度活動記録（主要項目のみ。部会員は敬称省略）

- 4月12日 八女伝統工芸館にて、八女和紙輸出についての打ち合わせ。
- 4月14日 宮内庁書陵部の田代圭一さんを、田主丸の藍生庵にご案内。
- 4月18日 和紙文化研究会に出席（早稲田大学）。
- 5月1日 八女商工会議所にて、八女和紙輸出についての打ち合わせ。
- 5月18日 九州経済連合会にて、八女和紙輸出についての相談。
- 5月25日 同窓会館にて、商経同窓会長等と八女和紙輸出についての相談。
- 5月26日 うきは市の野外円形劇場を見学。
- 5月28日 文学部産学連携室にて、八女和紙見本帳作成。
- 6月15日 九州国立博物館「文化財と防災」に参加。
- 6月20日 和紙文化研究会に参加。（東京、小津和紙店）
- 6月23日 公開講座「文化財をまもる」開始（久留米大学福岡サテライト）。
 - 第1回 6月23日 筑後文化資料室の取り組み 大庭卓也（久留米大学文学部国際文化学科准教授）
 - 第2回 6月30日 皇室の宝をまもる 田代圭一（宮内省書陵部）
前日29日には田代圭一さんを、八女の溝田工房にご案内。
 - 第3回 7月7日 イギリスの文化財保全 矢野英子（久留米大学文学部国際文化学科准教授）
 - 第4回 7月14日 河北家の文化財 狩野啓子（久留米大学文学部国際文化学科教授）
 - 第5回 7月21日 文化財をまもるとは 本田光子（九州国立博物館学芸部特任研究員）
- 6月27・28日 文化財保存修復学会に参加。（京都工芸繊維大学）。
- 7月18日 うきは円形劇場説明会（うきは市教育委員会主催）に参加。
- 7月19日 星野で皮白竹（カシロダケ）を見学。
- 9月21日 ミラノ・ビコッカ大学調印式（久留米大学と学術交流協定締結）
- 9月27日 八女見学
- 10月29日 公開講座「英語で出会う JAPAN at 久留米大学」
 - 第4回 郷土の伝統文化：和紙と藍染め（狩野）で、研究部会の活動の一端を公開。
- 11月27日 公開講座「筑後の伝統工芸」開始（御井キャンパス）
 - 第1回 11月27日 久留米の藍胎漆器 井上正道（井上藍胎漆器株式会社 代表取締役）
 - 第2回 12月4日 星野焼の復興 山本源太（陶芸家・詩人）

- 第 3 回 12月11日 筑後の櫨で和蠟燭をつくる 松尾真由美（ちくご松山櫨復活委員会代表）
- 第 4 回 12月18日 筑後の伝統工芸産業 浅見良露（久留米大学経済学部教授）
- 2月17日 上村哲弘さん（上村紙株式会社）と、八女伝統工芸館にて八女和紙輸出のための打ち合わせ。
- 3月4日 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングの船木陽介さんから、和紙に関する報告書の中に転載したいとの依頼があり、「クールジャパン報告書」を送信。
- 3月15日 ローマにて、ヴァチカン図書館修復部・古文書部を訪問。（大沼・矢野・狩野）
イヴァーノ・フランカヴィラさんと八女和紙輸出についての打ち合わせ。
日本大使館訪問、梅本大使と面会。
- 3月16日 ローマにて、サレジアーナ大学訪問、マレガコレクション見学。
- （文責 狩野 啓子）

(7) 民事法研究部会

本年度活動なし

(8) 地域社会経済研究部会

平成27年度の地域社会経済研究専門部会の活動報告として、1. ラオスとの技術交流の在り方の研究会と講演会の開催、2. 物流新幹線構想の研究会と講演会の開催、3. 久留米大学学外公開講座（御井学舎と大川市内会場）を開催、4. 4つのバスツアーを開催した。

1. ラオスと大川家具産業の連携

大川市の木工細工や家具組み立ての技術をラオスの家具産業の人たちへ技術移転するためのプロジェクトとして、平成26年度春より JICA の支援を得て技術交流が開始された。

2月21日～24日の3泊4日の計画で、ラオスのビエンチャンを訪れ、JICA 主催のシンポジウムに参加して、今後の技術協力の在り方について講演した。参加者はラオス政府の関係者8人と日本側の JICA 関係者8人とあとラオスの木工、家具、製材関係者の80人程度であった。

その後、ミャンマーの山岳民族のゲリラをまとめて政府軍と平和協定を結んだ井本勝幸氏の紹介で、ラオスと同様に大川の技術をミャンマーの山岳民族に供与することを求められたためにミャンマー経済についての研究会を発足させた。

2. 新幹線物流研究会

「新幹線物流の研究会」の研究成果が、環境省・国土交通省・総務省等主催の「eco japan cup 2011」において、「新幹線列島大動脈の夜間物流への活用」（石井幸孝氏（元 JR 九州社長・会長）・大矢野栄次教授（久留米大学））が、優秀政策提言証を受賞して以来、久留米地域のみならず、佐賀県や福岡県での勉強会を定期的に開催している。また、東京都内や宮城県、青森県等においても研究

会を開催している。この「物流新幹線構想」が今後、具体的な政策として実現されることが期待されている。

3. 公開講座

3.1. 「古代史公開講座」

久留米大学御井学舎500号館51A教室において、久留米大学公開講座「邪馬台国と神武天皇・神功皇后」を開催した。期間は、平成27年9月30日から10月28日までの毎週水曜日16:30-18:00であり、講師は、福島雅彦建築技師・郷土史家と久留米大学教授の大矢野栄次との計5回の公開講座である。

【邪馬台国と神武天皇・神功皇后】

出雲と神武天皇	大矢野栄次久留米大学経済学部教授	9月30日	御井キャンパス 500号館 51A 教室
邪馬台国九州説 1	福島雅彦建築技師・郷土史家	10月7日	
邪馬台国九州説 2	福島雅彦建築技師・郷土史家	10月14日	
有明海・筑後川と神宮皇后	大矢野栄次久留米大学経済学部教授	10月21日	
九州王朝論と天武天皇	大矢野栄次久留米大学経済学部教授	10月28日	

3.2. 大川学

大川市「ふれあいの家」において、5月12日(火曜日)から6月9日までの毎週5回、大川学を開催した。講師陣は、大川市議員でブッククラブ大川代表の川野栄美子さんと、大川を中心に日本民謡の師範教授を務められる鐘ヶ江侃さんを中心とした鐘ヶ江社中の皆さん、そして、久留米大学教授の大矢野栄次である。毎回40人～50人程度の参加であった。

【大川学】

大川の歴史と有明海	大矢野栄次久留米大学経済学部教授	5月12日	大川ふれ あいの家
大川の歴史と筑後川	大矢野栄次久留米大学経済学部教授	5月19日	
大川市・筑後川の民謡 I	ブッククラブ大川代表 川野栄美子	5月26日	
大川市・筑後川の民謡 I	ブッククラブ大川代表 川野栄美子	6月2日	
筑後川と日本民謡	鐘ヶ江社中	6月9日	

4. バスツアー

4.1. 神武天皇陵（仮説）見学会を久留米大学連携センターと共催で行った。

九種王朝論の議論の流れから、『古事記』、『日本書紀』に従って、畝傍山と比定した花立山の北側の焼ノ峠古墳（前方後方墳）を神武天皇陵として比定し、9月12日(土曜日)に現場検証のバスツアーを開催した。

神武天皇陵は畝傍山（花立山）の北にあると『古事記』書いてあり、その北側には神武天皇の息子

の神八井耳命の円墳もある。

『古事記』には、神武天皇陵は「御陵在畝火山之北方白檮尾上也」（畝傍山の北の方の白檮（かし）の尾の上にあり）と記されている。この畝傍山を花立山と比定すると、焼ノ峠古墳が神武天皇陵ということになるのである。

しかし、『日本書紀』には、「葬畝傍山東北陵」（畝傍山の東北陵に葬る）と記されている。天武天皇によって壬申の乱の後に移されたという意味であろう。

天武天皇は「壬申の乱」の後、飛鳥浄御原造営（小郡官衙遺跡）などを鬼門方向に向かって「祟り封じ」を行っている。ちなみに「焼ノ峠古墳」の案内板には「死者を埋葬した主体部はない」ということであるから、神武陵が丸ごと移されたとすることができるのである。

大海人皇子（天武天皇）が「壬申の乱」の際に神武陵に使者を送って挙兵を報告したとの記載があるので、この際の神武陵は焼ノ峠古墳（畝傍山の真北）であり、後に天武天皇は陵寺を建立したとのことから、北東側に移した「東北陵」付近には陵寺（大窪寺）があると思われる。

4.2. 女子畑ダム見学ツアー

6 月に三隈川と大山川の水質浄化と水量増加運動に参加している住民の皆さんの経験と意見を聞き、水量問題の現場を学ぶという計画で九州電力女子畑発電所の見学を実施した。

4.3. 大川市内見学

10月に、筑後川流域と有明海との河口付近の代表地域として大川市の見学を行った。有明海河口の自然と有明海との関係、大川市内の家具産業と製材所の見学会を開催した。

4.4. 大分川ダム見学

3 月に、大分川の水害被害を軽減するために建設されている大分川の工事現場の見学会を開催した。当日は、国土交通省大分川事務所の説明を受けたのちに、大分ダムの工事現場の見学を行った。

（文責 大矢野 栄次）

(9) 地域精神保健福祉研究部会

【論文・研究ノート・実践報告等】

- ① 大西良「筑後川流域圏における子育て支援に関する基礎的研究～子育て意識に関するアンケート結果より～」、筑後川流域圏の総合研究一日田地域研究』報告書
- ② 村岡則子・佐藤快信、占部尊士、廣田悦子「臨床と教育の協働による医療ソーシャルワーカー養成(2) 自由記述データの計量テキスト分析から学生の学びを中心に」、長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要 14(1), 35-40, 2016-03
- ③ 村岡則子・佐藤快信・占部尊士・折原重光・矢野忠「臨床と教育の協働による医療ソーシャルワ

カー養成の有用性に関する初歩的検証」、日本医療ソーシャルワーク学会 医療ソーシャルワーク研究 No.6 52項-58項 2016年 3 月

【学会報告・発表等】

- ① 大西良・占部尊士・辻丸秀策「要保護児童対策地域協議会の現状と課題～A 県 B 市での活動事例を中心に～」、日本福祉心理学会第13回大会 学会発表
- ② 大西良「英国リバプールにおける子どもの貧困対策とソーシャルワーク～現地での聞き取り調査の内容を中心に～」、第14回日本精神保健福祉士学会 学会発表
- ③ 大西良・池田博章「中学生の子どもをもつ保護者の経済的困窮感と子育て意識に関する考察」、日本社会福祉学会第63回秋大会（福岡県）9月20日 学会発表（ポスター）
- ④ 池田博章・大西良「養育環境と養育者の意識が中学生の QOL に与える影響－家族ストレスモデルと家族投資モデルの結合による検討－」、日本社会福祉学会第63回秋大会（福岡県）9月20日 学会発表
- ⑤ 村岡則子・占部尊士・折原重光・矢野忠「医療ソーシャルワーカー養成における循環型教育システムの取り組み（Ⅰ）～養成校での実践～」、第 6 回日本医療ソーシャルワーク学会（岡山県）9月12日 学会発表
- ⑥ 村岡則子・占部尊士「教育と臨床の協働による医療ソーシャルワーカー養成の実践的取り組み～循環型教育を通して～」、第13回日本福祉心理学会（東京）10月12日 学会発表（ポスター）
- ⑦ 村岡則子・占部尊士・折原重光・矢野忠「教育と臨床の協働による医療ソーシャルワーカー養成の実践的取り組み～現任者 MSW の学びに焦点をあてて～」、第52回九州医療ソーシャルワーカー研修会（佐賀県）11月21日・22日

（文責 辻丸 秀策）

(10) 心理教育研究部会

1. 第 3 回 協同教育フェスタ

心理教育部会における活動の一環として開催した標記の企画について報告します。

【目的】

「協同教育フェスタ」では、現在の教育現場で求められている能動的学習を中心とした授業づくりを、協同学習の理論と方法の観点から共に考える機会を提供する目的で開催しました。今回の内容は下記の通りでした。

【実施内容】

1. 主 催：協同教育研究所「結風（ゆいかじ）」
2. 後 援：久留米大学比較文化研究所・久留米大学大学院心理学研究科
3. 日 時：2015年 7 月25日（土曜日） 午前10時～午後 4 時30分
4. 場 所：久留米大学御井キャンパス、ミーティングルーム 3
5. 対象者：協同に基づく教育や授業づくりに関心のある方
6. 参加費：無料
7. スケジュールと内容

第 1 部（前半） 研修 10：00－11：30

講 師：安永 悟（久留米大学文学部）

テーマ：『LTD 話し合い学習法の基礎』

内 容：協同学習の基本的な考え方と技法を体験的に学んだ後、ジグソー学習法を使って LTD を学びました。協同学習の初学者にとっても分かりやすい内容でした。

第 1 部（後半） 研修 11：45－12：30

講 師：須藤 文（久留米大学非常勤講師）

テーマ：『LTD の活用』

内 容：第 1 部（前半）で学んだ LTD は、読解だけでなく、あらゆる言語技術の向上に役立ちます。本研修では、まず、LTD を活用して作成した看護学生のエッセイを紹介し、その後「主張・根拠・関連づけ」を意識しながら、エッセイの感想交流を行いました。この活動を通して、自分の授業での LTD 活用の手掛かりがつかめるように工夫されていました。

第 2 部 協同教育カフェ 13：30－14：30

進 行：安永 悟（久留米大学文学部）

内 容：全国各地から参加していただいている皆様に意見交換の場を提供しました。参加者同士が、自由に交流し、協同教育や協同学習、さらには授業づくりなどについて平日頃から、疑問に思っていることや悩んでいることを自由に交流し、問題解決に当たれる機会を提供できました。

第 3 部 実践報告 14：45－16：30

講 師：石田裕久（南山大学人文学部）

テーマ：『看護学臨地実習への LTD 話し合い学習法応用の試み－個人的な体験から協同的な学び合いをつくる－』

実践例 牧野典子 （中部大学生命健康科学部保健看護学科成人看護学領域）
松田麗子 （ 同 上 ）

荒川尚子 (同上)

滝沢美世志 (同上)

内 容：看護学の臨地実習は、所定の実習施設で特定の受け持ち患者の看護を通して、学生が個別的、体験的に学ぶ授業です。この学生たちの多様で豊かな体験を、個人の学びに留めることなく同じように実習を体験した仲間と共有し、他の仲間の体験からも学び合うことのできる機会を設定することはできないか、と思案してきました。そんな折に、協同学習の研究会の中で生まれたアイデアが、臨地実習体験をもとにして LTD 話し合い学習法を行うという手続き (LTD-NP: Learning Through Discussion for Nursing Practice) でした。この方法は、学生が自らの実習体験をふり返り、仲間の体験から学び、次の実習への動機づけを醸成するとともに、指導する側にも彼らが実習中に何を学び、何を感じているかのフィードバック情報を与えてくれることがわかりました。

本報告ではまず、石田から LTD-NP が生まれた経緯、方法と進め方、効果について報告がありました。その後、この方法を用いて実際の臨地実習指導を担当している教員から印象に残った事例が紹介されました。それらを通して、体験的学びをより豊かで実りあるものとするための方策について、参加者とともに考え、話し合うことができました。

懇親会：時間 17:00-19:00

場 所：久留米大学 800号館 2 階「樺」

【成果】

事前の参加申込は53名でしたが、当日参加された方もあり、最終的には60名を越える参加がありました。事前申込をされた方の情報から、参加者の所属は大学53%、看護学校15%、小学校・中学校・高等学校などの関係者23%、大学院生 9 %という割合でした。地域別にみると、福岡、山口、佐賀、長崎、熊本といった近隣県からの参加者が大半でしたが、遠くは中部や近畿、沖縄からの参加者もいました。大学関係者の専門は多岐にわたり、教育学、心理学、文学、言語学、工学、農学、看護学などを専門とする先生方の参加がありました。

本フェスタの開催の意義は、アクティブラーニングの基盤となる協同教育の観点から、高大接続に留まらず小学校から大学までの接続について共に学び合える場の提供にあります。今回で3回目となった協同教育フェスタ、参加者の皆さんから一定の評価をいただき、その役割を十分に果たしていると考えています。

(文責 安永 悟)

2. 久留米国際セミナー 2016

Kurume International Seminar 2016: Culture-inclusive approaches in psychology

本セミナーはアジアの健康心理学者、社会心理学者らをお招きした2012年度からスタートし、今年で4度目の開催となる。「Culture-inclusive approaches in psychology」に関する最近の研究の進展と実践活動をはじめとする健康科学領域における報告と議論を行うことを目的として開催された。中国および国内の研究者2名をお招きし、講演を行った。また、大学院生に広く発表の場を提供するために研究内容を紹介するプレゼンテーション（3タイトル）を実施し、活発な議論や学術交流が行われた。

日 時：2016年3月2日(水) 午後15時30分から16時

2016年3月3日(木) 午前9時30分から午後14時30分

場 所：久留米大学 御井本館（新しい建物）2階ラーニングコモンズB・C

主 催：久留米大学大学院心理学研究科津田彰研究室（健康心理学）

共 催：久留米大学比較文化研究所心理教育部会

後 援：久留米大学文学部同窓会

プログラム

3月2日(水)

場 所：久留米大学 御井本館（新しい建物）2階ラーニングコモンズB・C

15：30～16：00 Akira Tsuda（津田 彰）

A Biopsychosocial Approach to Stress and Well-being

16：00～16：40 Yukihiro Yada（矢田 幸博） 発表30分、質疑10分

Physical Characteristic Analysis of The Elderly Person and Construction of Evaluation System for Supporting Caregiver

19：00～21：00 情報交換会

3月3日(木)

場 所：久留米大学 御井学生会館3階 ミーティングルーム2

9：30～9：45 Weng Lixia（翁 麗霞）

A Preliminary Study on Endowment in Ningbo

9：45～10：30 ゼミ生研究紹介

Kengo Mihara（三原 健吾）

Relationship between Perceived Happiness, Objective Evaluation of Sleep and Psychoneuroendocrinological Responses

Zhang Shuzhen（張 淑珍）

An Integrative Psycho physiological Study in Elderly

Okamura Yuichi（岡村 祐一）

Relationship between Brain Execution Function and Activities of Daily Living in Elderly Living in Private Residential Home

10：30～10：45 休憩

10:45~14:30 西の丘の検討会（昼食）

（文責 津田 彰）

3. 実践的な臨床心理家の育成

心理学系出身者が臨床心理家として実際の現場で活躍するためには、「臨床心理士」をはじめとする資格をもつことが大きな要件になっており、臨床家としての仕事を理解しておくことが肝要である。本企画では、実践的な臨床心理家の育成を目的として、主に本学大学院心理学研究科出身の臨床心理士を講師として、臨床心理士の資格試験ならびに臨床心理士の役割と仕事について2回の研修会を実施した。

第1回研修会

第1日

- （1）日時：8月30日（日）10時~12時、13時~15時
- （2）場所：500号館511教室
- （3）内容：基礎心理学、統計・研究法、心理査定、精神症状
- （4）講師：天満翔 氏
- （5）参加者：4名

第2日

- （1）日時：9月6日（日）10時~12時、13時~15時
- （2）場所：500号館511教室
- （3）内容：基礎心理学、統計・研究法、心理査定、精神症状
- （4）講師：天満翔 氏
- （5）参加者：3名

第3日

- （1）日時：9月12日（土）10時~12時、13時~15時
- （2）場所：500号館511教室
- （3）内容：心理療法、法律・倫理・地域援助
- （4）講師：逸見文子 氏
- （5）参加者：4名

テキスト：臨床心理士試験 徹底対策テキスト&予想問題集 '15-16年度版

参加費：無料

第2回研修会

第1日

- （1）日時：3月5日（土）10時~12時、13時~15時
- （2）場所：500号館511教室
- （3）内容：基礎心理学、統計・研究法

(4) 講師：天満 翔 氏（富田医院）

(5) 参加者：5 名

第 2 日

(1) 日時：3 月 6 日(日) 10時～12時、13時～15時

(2) 場所：500号館511教室

(3) 内容：心理査定、精神症状、心理療法

(4) 講師：天満 翔 氏（富田医院）

(5) 参加者：4 名

テキスト：臨床心理士試験 徹底対策テキスト&予想問題集 '15-16 年度版

参加費：無料

(文責 木藤 恒夫)

(II) 会計専門職研究部会

①研究テーマ

会計専門職研究部会は、会計専門職（公認会計士・税理士）の実態と制度に関する研究を目的としている。

②研究計画

公認会計士（監査法人）および税理士（税理士法人）の業務実態の調査研究

会計専門職（公認会計士・税理士）の実態と制度に関する研究

③2015年度の活動報告

a. 学会での研究報告

1. 九州経済学会第65回大会（開催場所：鹿児島大学郡元キャンパス）

日 時：2015年12月5日(土)

研究報告テーマ：学部・研究科における会計教育について

杉野による単独報告

2. 日本会計研究学会九州部会第97回大会（開催場所：九州産業大学）

日 時：2016年3月26日(土)

研究報告テーマ：会計教育の進展と私立大学経営

杉野および田坂公・商学部教授による共同報告

b. 講演会の企画・実施

1. 日本公認会計士協会北部九州会による講演会「制度説明会・職業紹介」の実施

日 時：2015年7月7日(火) 13:10～14:40、621教室（久留米大学御井学舎）

内 容：制度説明会（担当者説明・パンフレット配付等）、合格体験談、質疑応答、等

協会講演者：日本公認会計士協会 北部九州会

渉外広報委員長 柴田 祐二 氏（新日本有限責任監査法人）

渉外広報副委員長 湯田 高弘 氏（有限責任監査法人 トーマツ）

準会員	水町 俊太 氏 (新日本有限責任監査法人)
準会員	入江 量智 氏 (新日本有限責任監査法人)
事務局	田中 智洋 氏

2. 財務省福岡財務支局による講演会の実施

日 時：2015年11月16日(月) 14:55~16:25、622教室 (久留米大学御井学舎)

題 目：「北部九州の経済情勢と経済統計の見方」

内 容：資料配付、パワーポイントによる説明

受講生からの質問等。最後に、アンケートの実施も行なう。

講演者：財務省福岡財務支局 経済調査課長 藤原 哲 氏

財務省福岡財務支局 総務課第一係長 熊本 剛士 氏

3. 九州北部税理士会による講演会の実施

日 時：2015年12月2日(水) 10:45~12:15、622教室 (久留米大学御井学舎)

講演内容：租税教室

講演者：税理士 松永 恵美子 氏 (九州北部税理士会租税教育推進部副部長)

事務局業務課長 毎熊 宏之 氏

事務局 吉井 莉恵 氏

4. 金融庁公認会計士・監査審査会委員による講演会の実施

日 時：2015年12月16日(水) 13:10~14:40、621教室 (久留米大学御井学舎)

内 容：グローバル経済における公認会計士の使命と役割期待

講師：廣本 敏郎 氏 (元 一橋大学大学院商学研究科教授)

弓場 知三郎 氏 (財務省福岡財務支局理財部理財課長)

c. 会計専門職機関への調査研究等 (杉野および田坂公・商学部教授)

1. 調査研究対象：有限責任監査法人トーマツ (福岡市中央区、エルガーラ福岡事務所)

日 時：2015年9月17日(木)

担当者：マネジャー 公認会計士 湯田 高弘 氏

マネジャー 公認会計士 久原 明夫 氏

2. 調査研究対象：新日本有限責任監査法人 (福岡市中央区、天神ビル8階・福岡事務所)

日 時：2015年9月17日(木)

担当者：シニアパートナー 公認会計士 柴田 祐二 氏

d. その他

1. 日本公認会計士協会北部九州会の主催による「新春のつどい」に来賓として出席

日 時：2016年1月8日(金) (西鉄グランドホテル)

日本公認会計士協会北部九州会の役員、関係団体や関係機関の出席者と意見交換を行なう。

(文責 杉野 博貴)

公認会計士を志す方へ | 日本公認会計士協会北部九州会

日本公認会計士協会 北部九州会 トップページ > 公認会計士を志す方へ

公認会計士を志す方へ

CPAという言葉聞いたことはありますか？

(Certified Public Accountants) — 公認会計士

CPAは会計のスペシャリストとして、社会の健全な発展に重要な役割を担う仕事です。

また、著しく変化する現代社会にあって、その高い専門的能力へのニーズはますます拡大。

監査・税務・コンサルティングの基本業務のみならず、CPAを選ぶことは、いま注目される領域がそのまま活躍の場になることを意味します。フィールドはまさに自分次第。

バックボーンではなく、自分のスキル、自分の経験、自分の先を読む力がそのまま価値になる。CPAを選ぶということ—それは、先の先に限りなく広がる可能性と夢を手に入れることです。

制度説明会・職業紹介

公認会計士制度や業務内容について、一人でも多くの学生の方に興味や関心を持って頂くと共に、将来公認会計士を目指す方々に、より一層の知識と理解を深めていただくことを目的として開催しています。

平成27年度開催予定・実績

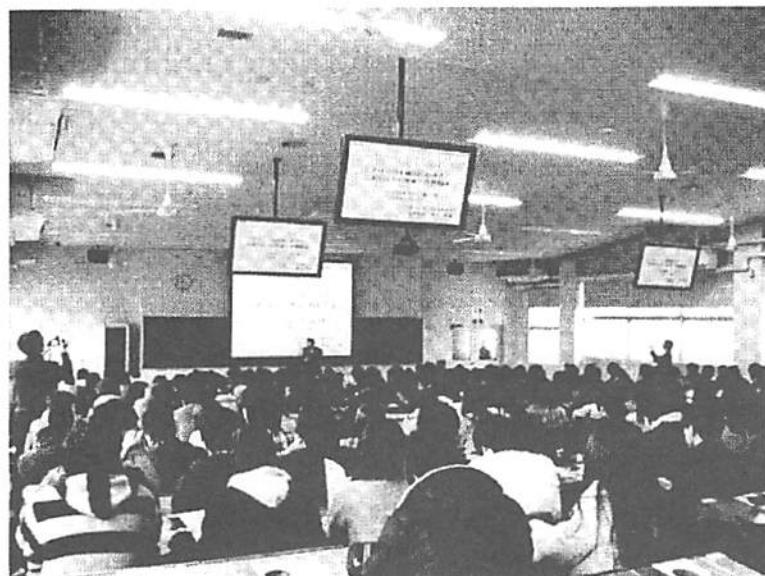
開催日	時間	高校・大学名	参加人数
平成27年6月5日	10:40~12:10	西南学院大学	51名
平成27年6月9日	16:40~18:10	九州大学	156名
平成27年7月7日	13:10~14:40	久留米大学	232名
平成27年7月9日	13:00~14:30	佐賀大学	27名
平成27年7月10日	13:00~16:00	鞍手高等学校	33名
平成27年7月16日	14:30~16:00	長崎大学	16名
平成27年7月24日	9:45~10:45	佐世保東翔高等学校	44名
平成27年9月29日	13:00~14:30	福岡大学	237名
平成27年10月13日	10:40~12:10	九州産業大学	81名
平成27年11月10日	14:45~16:05	福岡高等学校	21名
平成27年11月28日	13:10~15:00	長崎大学	250名
平成27年12月18日	14:40~16:10	北九州市立大学	94名
平成28年3月15日	13:40~15:30	久留米商業高等学校	28名

◀ 参考資料①

日本公認会計士協会北部九州会による講演会「制度説明会・職業紹介」の実施状況は、協会ホームページに紹介されている。

●久留米大学での講演

平成27年12月16日、久留米大学商学部において、廣本委員が「グローバル経済における公認会計士の使命と役割期待」をテーマとして講演を行い、多数の学生の皆さまに御出席いただきました。



【講演資料】(PDF:556KB)

| 利用ルールについて | 個人情報保護について |

公認会計士・監査審査会 / Certified Public Accountants and Auditing Oversight Board
所在地 〒100-8905 東京都千代田区霞が関3-2-1 中央合同庁舎第7号館
電話番号 03-3506-6000(代表)

◀ 参考資料②

金融庁公認会計士・監査審査会委員による講演会の実施状況は、金融庁ホームページに紹介されている。

(12) 日本アジア比較文化研究部会

○打ち合わせ会

会 場：比較文化研究所共同研究室

日 時：5 月 14 日(木) 午後 3 時～ 5 時

概 要：年間日程

第 1 回＜越境＞講演会「“宝島” 天草の過去・現在・未来」

講 師：安田 公寛 氏（前天草市長、元全国市長会副会長）

会 場：御井本館133教室

日 時：7 月 3 日(金) 午後 3 時～ 5 時

概 要：安田公寛氏は、熊本県天草の、本渡市長、天草市長として、2000年から2014年まで4期14年勤めた。天草の歴史を紹介するとともに、現在の天草も、人口減、人材流出の悩みを抱えており、それを打開する方策として、様々な取り組みを行ってきたことを、パワーポイントを使って、説明された。天草の歴史としては、天正遣欧少年使節が帰国後学んだ、日本初の活版印刷が行われたところでもある天草コレジオ（カレッジ）のことなどの紹介があった。また、様々な取り組みとして、公文書の保存を目的とした天草アーカイブズの設置、天草エアラインの拡充、天草宝島構想、長崎の教会群とキリスト教関連遺産の構成資産として崎津集落世界遺産登録事業、地場産業育成としての天草版オイルサーजन、オリーブオイルの開発の取り組みなどが紹介された。

第 2 回＜越境＞講演会「エジプトの社会と文化」

講 師：アハマド・ファトフィ氏（カイロ大学教授）

会 場：御井本館133教室

日 時：9 月 16 日(水) 午後 3 時～ 5 時

概 要：アハマド・ファトフィ氏は、中東・アフリカ地域きっての知日家で日本文学研究者でもある。氏は、エジプト・カイロ大学文学部日本語日本文学科の第一期生として、日本留学後母校の教師になり、その語度々渡日、日本の大衆文化にも詳しく、映画監督の山田洋次さんから「エジプトの寅さん」と命名された。講演はパワーポイントを使ってなされ、エジプトは古代遺跡で有名だが、実は国民の90パーセントは農民か農村出身であり、そういう意味では農業国といってもいい。そのような農村の伝統文化について、結婚式などで歌い踊られる歌舞音曲について、自らの取材を通して得た映像などを使って、話された。

第 3 回＜越境＞講演会「東ティモール支援における人材育成の重要性」

講 師：宮良 多鶴子 氏（日本・東ティモール友好の会副会長、ソプラノ歌手）

会 場：御井本館13C教室

日 時：10月15日(木) 午後 3 時～ 5 時

概 要：東ティモールは、1913年からポルトガルの植民地であったが、1975年ポルトガルに代わっ

て、インドネシアが占領した。その後独立派とインドネシア軍の抗争を経て、2002年国連軍の介入により、独立を果たした。しかし、その後も抗争が繰り返され、多数の難民を生んでいる。宮良氏は、ソプラノ歌手として活躍中、2008年東ティモール独立宣言日式典コンサートに招待され、各地の学校・施設でのコンサートも実施した。東ティモールでは、相次ぐ内戦のため、たくさんの孤児が各地の施設に収容されており、それらの施設で孤児たちと触れ合うようになってから、一貫して、東ティモール支援のための活動が続けてきている。現在まで、10回を超える東チモール訪問の経歴をパワーポイントを使って、情熱的に話され、歌も披露された。

第 4 回＜越境＞講演会「アホウドリと日本人の太平洋進出」

講 師：平岡 昭利 氏（下関市立大学教授）

会 場：御井本館13B 教室

日 時：1 月21日(木) 午後 3 時～ 5 時

概 要：まず初めに、研究の視点の説明があった。日本の地理学の研究は、結果論に終始することが多く、なぜ、どうしてという因果関係への視点が希薄である。そこで、本研究では、行為目的であるアホウドリをキーワードとして、行為主体や行為空間の変化、拡大というフレームワークで新たな視点から、日本人の太平洋進出を検討したいと述べられ、パワーポイントを使って、説明された。アホウドリの羽の西洋諸国の需要、特にフランスのファッションでの流行などから、その羽を求めて、八丈島や小笠原諸島へ業者が出かけて行ったが、次第に資源が枯渇し、さらに南の島へ進出するようになった。一方アメリカなどでは、農業用の肥料として、鳥の糞が重用され、太平洋の島々へ進出していた。日本の業者も、鳥の羽とともに鳥の糞を求めていくようになり、さらに火薬の原料としてリンが着目されるようになる。このように、当初の行為目的の鳥の羽毛から、鳥の糞、さらにリンへの行為目的も変化し、空間も拡大していったと述べられた。

○本年度総括会議

会 場：比較文化研究所

日 時：1 月21日(木) 午後 5 時～7 時

（文責 浦田 義和）

(13) 歴史科学研究部会

2015年度、歴史科学部会では古代史とその民俗学を中心に 2 回の研究会、および講演会を地域の古代史ファンに向けて行った。いずれも、200名強の参加者があり、公開講座に引き続いて盛況であった。

講演の内容は、下記に記すとおりである。福山は、冬至、夏至を中心とした祭祀線や古代より信仰の深いシリウスや北斗七星（アルカイダ）の AD500年代における歳差移動について、諸塚山を中心とした椎葉、高千穂地域の神楽、磐座について調査を行った。また、九州の古代史について造詣の

深かった故古田武彦氏の追悼記念講演会（大阪府立大学なんばサテライト）においては、久留米大学比較文化研究所を代表して「今後の九州古代史の展開」について、挨拶を行った。大矢野は、日本書紀や北回歸線への祭祀の観点から台湾と筑後地方でフィールドワークを行い、郷土の古代史を中心とした著作物の刊行に至った。

講演会、研究会には、大阪府立大学講師 正木裕氏、旧朝日新聞記者 内倉武久氏、佛教大学 黄當時（中国語学）吉田氏（宮司、旧学芸員）をはじめ多くのアカデミックな方々の参加を頂き、闊達な議論となった。また、歴史部会が始まってから共同研究者でもある講師陣から、10冊状以上の著作物が刊行されており、まとめの観点から比較文化研究所報にこれまでの講演の要旨を刊行した。

これらの議論、活動を踏まえた2015年度のトピックスは、従来の考古学分野に限らない分野（生物学、環境、気候学）からの様々な発見に基づく歴史解釈の変更であった。例えば、本学近くの遺跡で銀の鋳造物が見つかったり、人類遺伝学の観点から日本人とポリネシア、中国南部少数民族との相同性が指摘されたりと様々なテーマが次々と報告されてきている。九州地方の古代史、民俗学に限らず、アジア地域の海洋考古学や遺伝学も含めた課題が浮かび上がった年度でもあった。

講演内容

郷土の歴史公開セミナー

—古代から近世までの九州—

日 時：2015年11月1日(日) 12:30-16:30

会 場：久留米大学御井学舎 学生会館 3F

第一話 墓制から見る九州の古代

伊藤 まさこ（郷土史家）

第二話 福澤諭吉の大いなる秘密

久慈 力（著述家）

郷土の古代史公開セミナー

—新九州王朝論 2016—

日 時：2016年3月21日(月) 12:00-17:00

会 場：久留米大学御井学舎 500号館 51A教室

第一話 「倭国（豊国）北伐考」

福永 晋三（神功皇后紀を読む会）

第二話 磐井から継体へ — 6世紀の権力移動—

内倉 武久（旧朝日新聞記者）

（文責 福山 裕夫）

2. 筑後川流域圏の総合研究（日田地域）

1) 「筑後川流域圏の総合研究」

比較文化研究所のプロジェクト研究「筑後川流域圏の総合研究」は2006年度から開始した。筑後川流域圏を下流から上流まで、5つの地域に区切り、下流から上流まで2年ごとに研究していくというものである。今まで次のような地域を対象として研究がなされ、その都度報告書を発行してきた。

2006年度・2007年度 『大川地域研究』

2008年度・2009年度 『三潞地域研究』

2010年度・2011年度 『久留米地域研究』

2012年度・2013年度 『うきは・朝倉地域研究』

2) 「日田研究」

2014～2015年度には、筑後川流域圏の総合研究の締めくくりとして、日田地域研究を行い、年度末に、『日田地域研究（筑後川流域圏の総合研究5）』を刊行した。掲載された論文等は以下のとおりである。

浦田義和 埴谷雄高著「日田－重労の響き」について

大西 良 筑後川流域圏における子育て支援に関する基礎的研究
～子育て意識に関するアンケート調査より～

河内俊英・畠中昌教

環境都市日田における再生可能エネルギーは観光資源として有望である

北村修二 環境条件を活かした先進的事例としての大分県日田市のまちづくり

谷口 豊 「日田林業」の動向をめぐって

堂前亮平・高木恵・篠倉大樹

水郷日田における水路の利用と管理からみる地域特性

吉田洋一 山口酒造場史料目録

なお、比較文化研究所プロジェクト研究としての「筑後川流域圏の総合研究」は、2015年度をもっていったん終了した。次年度からは、研究部会として「筑後川流域圏研究部会」が新たに発足することになっている。

（文責 浅見 良露）

3. 比較文化研究所 研究員発表会

1) はじめに

2006年度よりスタートした当発表会は、2015年度で第10回目の実施となりました。2015年度は25名の研究員が当研究所に所属しており、当発表会ではその内の20名が発表を行いました。次年度も研究員として更新を希望される方は、「2月に行う研究成果の発表会において、口頭発表を行わなければならない。」としています。より徹底するため、発表会の予備日を設け、3名の方が発表されました。2015年度は比較文化研究所研究室、スカイラウンジA・B・Cで開催しました。平日にもかかわらず、担当教員の先生方をはじめ、各領域の院生といった多くの方々に参加していただきました。また、各会場での質疑応答も活発に行われ、内容のある発表会となりました。

2) 発表会の日時、会場、タイムスケジュール及び発表形態

①日 時：2016年2月18日(木) 9:20~17:30

②会 場：比較文化研究所研究室、スカイラウンジA・B・C

③タイムスケジュール

- (1) 9:00~9:20 受 付
- (2) 9:20~9:30 開会挨拶
- (3) 9:30~12:40 研究発表 12演題 (A 会場 6 演題、B 会場 6 演題)
- (4) 12:40~13:30 昼 食
- (5) 13:30~17:10 研究発表 8 演題 (A 会場 4 演題、B 会場 4 演題)
- (6) 17:15~17:30 閉会挨拶

④発表形態

1人30分(口頭発表25分 質疑5分)

原則として3演題毎に座長を交代する(1座長:1時間で時間調整)

座長、ベル(タイムキーパー)係は基本的に研究員が交代で行う

3) 発表演題一覧

(A 会場)

グループ① 9:30~11:00

座長:ポドリヤク ナタリヤ

時間・ベル:高木 恵

時 間	発 表 演 題	発表者
9:30~10:00	地域ブランドについて	浦川康弘
10:00~10:30	日本語教育史における入門期教科書の基礎語彙研究 ～国語科学習基本語彙選定との比較検討～	占部匡美
10:30~11:00	『金槐和歌集』 662 番について	橋口公子

グループ② 11:10~12:40

座長:池口功晃

時間・ベル:篠倉大樹

時 間	発 表 演 題	発表者
11:10~11:40	中学生の障害児・者への受容行動変容を促す学習プログラムの実践効果の検討	ポドリヤク ナタリヤ
11:40~12:10	大木町のバイオマスタウンにおける考察	陳 宥蓉
12:10~12:40	律令期の南海道における国分寺塔の可視領域	高木 恵

グループ③ 13:30~15:30

座長:陳 宥蓉

時間・ベル:占部匡美

時 間	発 表 演 題	発表者
13:30~14:00	日帰り観光商圈の設定とその有用性の検討 —大分県14市を事例に—	池口功晃
14:00~14:30	『和漢朗詠集』中の日本漢詩について	韓 立佳
14:30~15:00	中国既成観光地周辺地域における農村観光の展開 —泰安市岱岳区里峪村を事例として—	任 大欣
15:00~15:30	近世筑後川水運の展開と久留米藩による集散地形成	篠倉大樹

(B 会場)

グループ① 9:30～11:00

座長：山本賢司

時間・ベル：江口弘高

時 間	発 表 演 題	発表者
9:30～10:00	高齢者における宗教性と生化学的指標との関連 血清 proBDNF, BDNF およびコルチゾール濃度に着目して	今村義臣
10:00～10:30	公的な集団における地位の違いと集団同一視	赤須大典
10:30～11:00	新しい束縛行動を測定する尺度の開発	片岡 祥

グループ② 11:10～12:40

座長：天満 翔

時間・ベル：鄧 科

時 間	発 表 演 題	発表者
11:10～11:40	わが国における税効果会計に関する一考察 —認識対象となる差異の把握方法について—	富田正幸
11:40～12:10	わが国の会計学的暖簾概念に関する一考察 —昭和期(戦後)における歴史的暖簾観—	江口弘高
12:10～12:40	ロールズにおける近代自然法批判	山本賢司

グループ③ 13:30～15:30

座長：片岡 祥

時間・ベル：赤須大典

時 間	発 表 演 題	発表者
13:30～14:00	発達障害児のロールシャッハ・テスト上の特徴 成長に伴う各指標の変化について	天満 翔
14:00～14:30	多理論統合モデルに基づく中国人の効果的ストレスマネジメント行動の縦断研究	鄧 科
14:30～15:00	日本、中国、韓国の大学生におけるストレスマネジメント行動の意思決定バランスと主観的ウェルビーイングとの関連	松田輝美
15:00～15:30	事例研究報告：母親への親面接・電話相談による間接的な不登校中学生へのスピリチュアルケアの効果	吉良晴子

4. 日誌 (2015年度)

2015年 (平成27年)

- 6 月23日 (火) 比較文化研究所運営会議
- 6 月24日 (水) 比較文化研究所会議
- 9 月15日 (火) 比較文化研究所運営会議
- 11月23日 (月) 比較文化研究所運営会議
- 12月14日 (月) 比較文化研究所運営会議
- 12月16日 (水) 比較文化研究所会議

2016年 (平成28年)

- 1 月19日 (火) 比較文化研究所運営会議
- 1 月27日 (水) 比較文化研究所会議
- 3 月 2 日 (水) 比較文化研究所運営会議
- 3 月10日 (木) 比較文化研究所会議

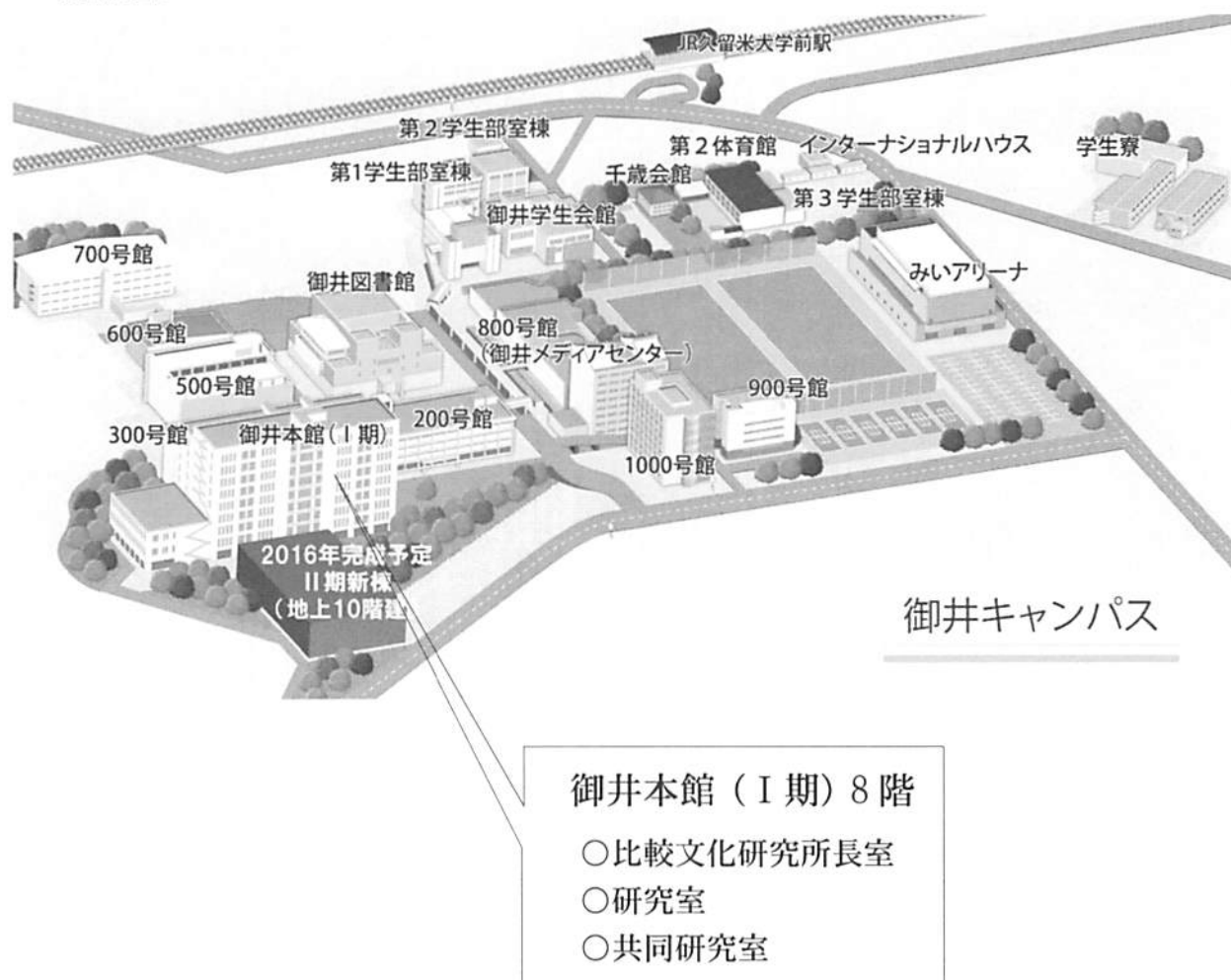
※部会活動を除く

施設・設備

比較文化研究所は、1987年の設立当初は、旭町キャンパスの大学本館 3 階に設置されましたが、大学院比較文化研究科が開設された1989年に、旭町キャンパスから御井キャンパスに移りました。その後数回の移動を経た後、2006年に100号館に移動した後、2015年 3 月に現在の御井本館 8 階に移動しています。研究所の部屋は 3 部屋あり、1 部屋は研究所長室として、1 部屋は、会議・研究会に使用、他の 1 部屋は資料室および作業室として使用しています。なお、専任所員の研究室は現在300号館にありますが、今年11月Ⅱ期新棟 6 階に移転の予定です。

研究所の資料室には、紀元前 3 世紀に不老不死の薬を求めて渡来したとされる「徐福」に関する図書が保管されています。これは、元佐賀テレビ副社長内藤大典氏（故人）が収集された図書です。現在、図書の整理を進めているところであり、この方面の研究の発展に寄与するものと期待されます。

〔案内図〕



久留米大学 比較文化研究所年報 第9号

著作権所有

不 許 複 製
禁 転 載

平成28年12月10日 印 刷 第9号
平成28年12月15日 発 行

編 集 兼 久留米大学比較文化研究所
発 行 者 〒839-8502 久留米市御井町1635

印 刷 所 もろふじ印刷
〒830-0074 久留米市大善寺町夜明1116